

# 授業の中でスピーキング力を伸ばす 学校としての取り組みと授業実践

平成29年12月10日（日）

山形県立新庄南高等学校

教諭 菅井 亮佑

[ssugair@pref-yamagata.ed.jp](mailto:ssugair@pref-yamagata.ed.jp)

# 山形県立新庄南高等学校

- 1学年普通科3クラス、商業科1クラス

- 進路多様校

進学 8割

大学・短大 6割（ほぼ推薦）

専門学校 2割（看護系 1割）

就職・公務員 2割

# 山形「スピーク・アウト」方式推進事業

- 研究指定

平成26年～28年までの3年間研究校に指定

- 研究内容 進学校のモデル授業の開発

1. 教員・生徒の英語使用増加
2. 生徒の英語コミュニケーション能力の向上
3. 即興的に英語を使用できる力の養成

# 山形「スピーク・アウト」方式推進事業

- 研究方法

- 外部講師を招いて年3回～4回校内研究協議会  
(校外への公開授業、研究協議会1回含む)

- 外部試験や語彙サイズテストで定点観測

- GTEC for STUDENTS

- (毎年各学年2回、7月、12月 3年のみ7月1回)

- GTEC Speaking test (毎年各学年1回)

- 英検受験の促進

# スピークアウト以前の状況

## 教員の意識

### ◆計画性のなさ

活動は多いが、一貫性がない

⇒何のためにこの活動をしているのか？

### ◆教えるだけの指導

1回教えれば、生徒はできるという思い込み

⇒英語が使えるまでには反復練習が必要

# 新南スピーク・アウトの柱

① 計画性

② Small  
Talk

使える英語

③ プレポス  
活動

④ 頻繁に  
Output

# 新南スピーク・アウトの柱①

## 計画性

- 3年間→1年間→1レッスン→1時間
- レッスン毎に軽重をつける
- Oral Introductionから最終目標まで体系的に
- 分かる⇒何度も復習⇒使える
- Input⇒Intake⇒Output

# 新南スピーク・アウトの柱①

## 教員が意識したこと

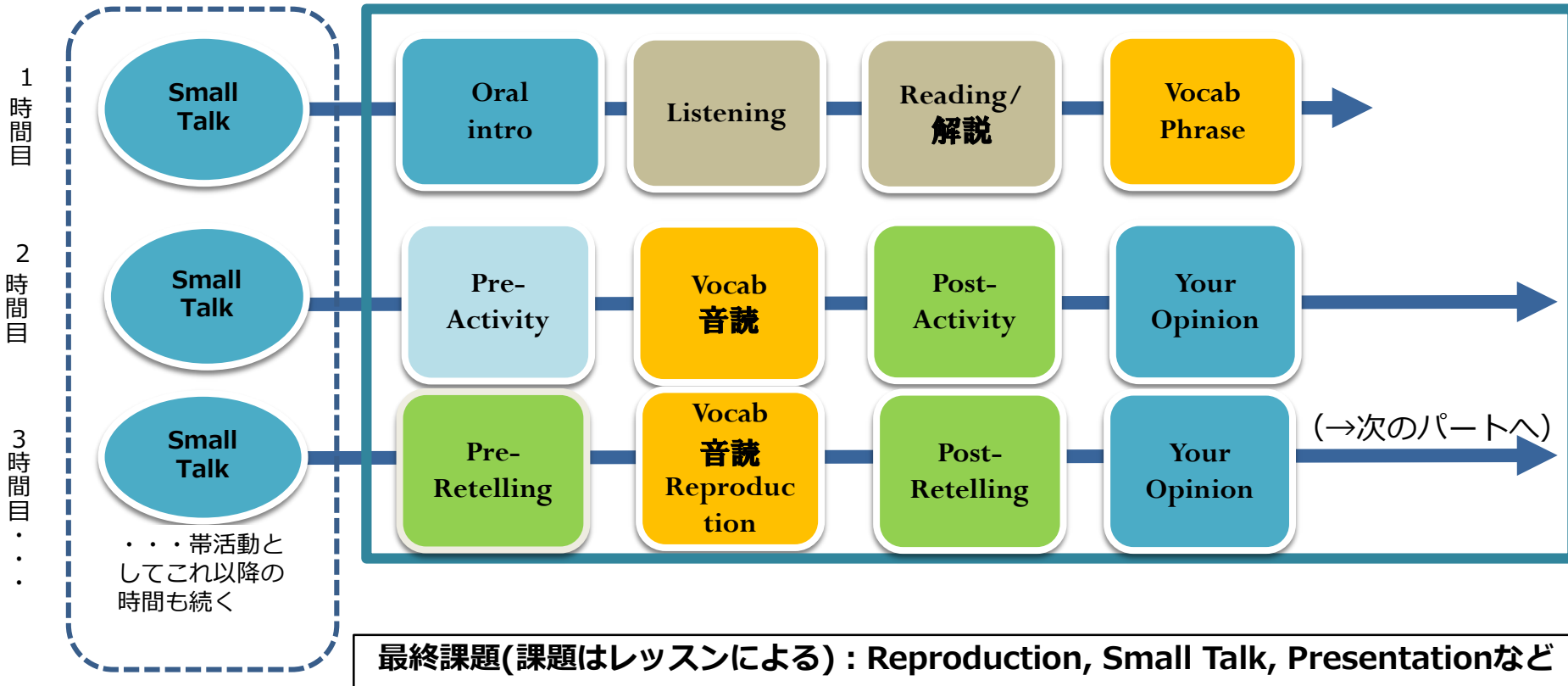
- 聞く⇒読む 話す⇒書く
- 焦点を絞った指導  
(生徒に使わせたい英語に絞る)
- 同じ言語活動を繰り返す
- できない(Pre-activity)⇒できる(Post-activity)
  - 授業の初めと終わりで成長が実感できる
  - 生徒に出来ない所を気づかせる



※簡略化しています。

## <新庄南高校のコミュニケーション英語の授業の枠組み>

Small Talk(帯活動) 教科書1パートを扱う流れ (1パート約3時間)



# 新南スピーク・アウトの柱②

## ◆ Small Talk

### ➤ 目的

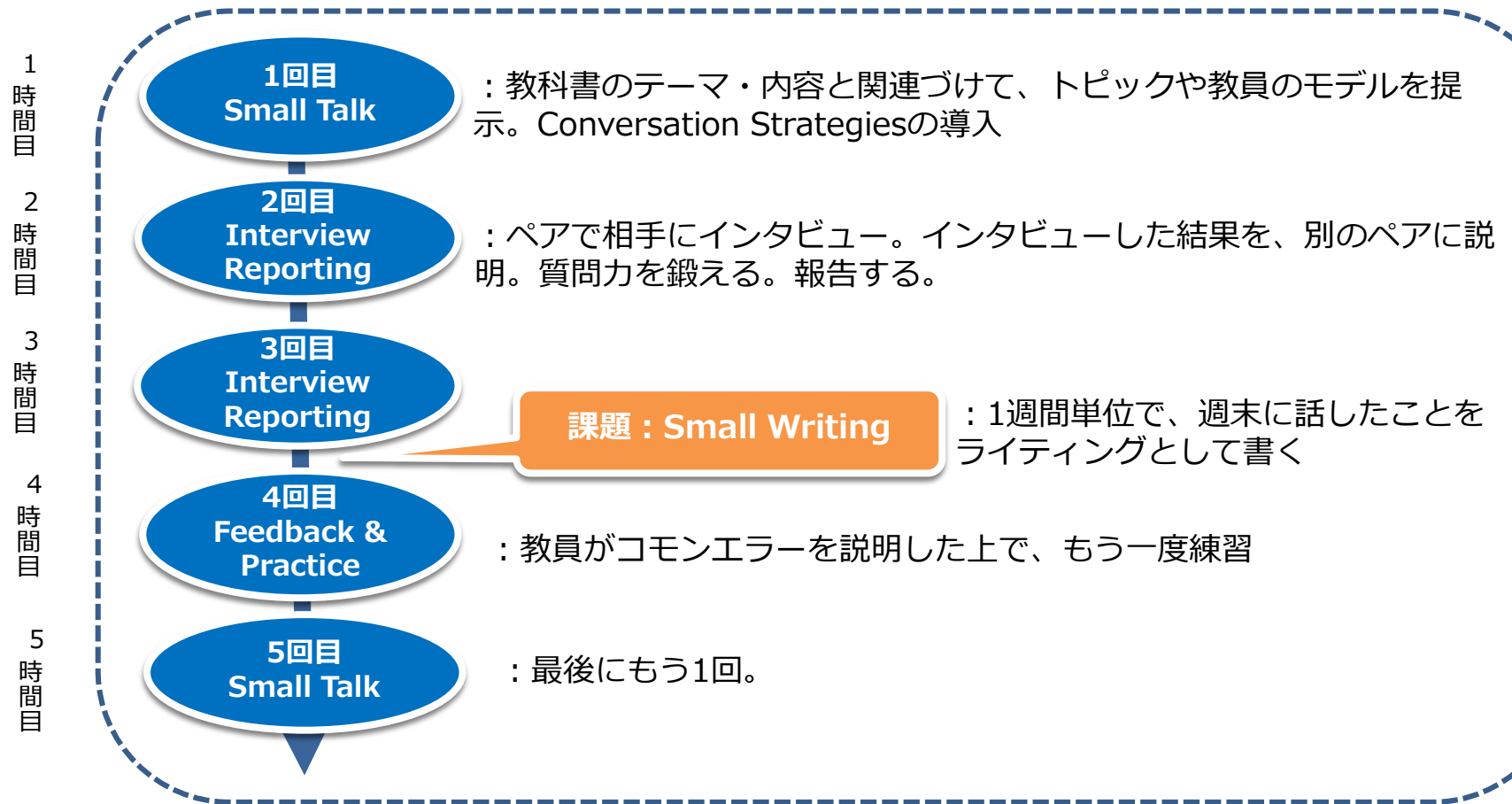
- ① 英語を即興的に使用するトレーニングをする。
- ② Conversation Strategies を使って英語でのコミュニケーションの取り方を学ぶ。

(How to communicate)

### ➤ 概要

- 帯活動として授業の始めに行う。
- 生徒の身近なトピックから始め、教科書の内容へ発展させる。
- 1 週間同じテーマで何度も行う。

## <Small Talk (生徒同士) の1週間の流れ>



# 新南スピーク・アウトの柱②

## 教員が意識したこと

- Conversation Strategiesを使った導入
- 生徒に身近なトピック⇒教科書の内容へ
- 教員のモデル提示  
⇒生徒が話せそうなモデルを
- 意味中心でのやりとり  
⇒文法的間違いはrecastして気づかせる
- 導入期は質より量重視  
⇒まずは1分間会話を続けることから
- Your OpinionやSmall Discussionへ応用

# 新南スピーク・アウトの柱③

## 生徒に気づきと達成感を与えるプレ・ポスト活動

Pre-  
activity

- その日の授業のゴールの活動(発信系：Q&A,Small Talk)
- 生徒はあまりできない。もやもや感

音読・  
語彙

- ゴールに向かって出来ないことが出来るようになるための活動（定着系:教科書の内容のIntake）
- 定着させるための様々な音読や語彙指導（反復練習）

Post-  
activity

- Pre-activityと同じ言語活動(発信系Q&A,Small Talk)
- 生徒は音読や語彙練習を通して出来るようになる

# 新南スピーク・アウトの柱③

プレポス活動で教員が意識したこと

- 教科書の内容に関連させた活動
  - 何のために音読や語彙の練習をしているのか
- 生徒に使わせたい英語に絞って音読や語彙の練習
  - 生徒のレベルに合わせて
- プレポス活動の時は教科書を閉本させる。
  - 自分の言葉で語るためのステップ
- Visual AidsやKey Wordsの使用
  - 教科書の内容に関する写真やKey Wordsの使用で英語を引き出す。

# 新南スピーク・アウトの柱③

## ◆様々な音読で十分なインテイク

### ①様々な音読を通して、ゴールのポスト活動へ

Overlapping / Shadowing / Buzz Reading

Reading Check / Read & Look Up / 虫食い音読

### ②聞き手が内容を理解しやすい音読

聞き手は教科書を閉じて話し手の音読を聞く。

意味や構造が分かって音読すると理解できる。

### ③フレーズをIntake

教科書で使われているフレーズを覚える。

# 新南スピーク・アウトの柱④

アウトプットの多さ…使える英語を目指すため

○授業で

Small Talk / Your Opinion / Retelling

Reproduction / **教員とのQ&A** / Presentation

Speech / Show & Tell / Discussion

○パフォーマンステストで

音読テスト、Reproduction Test、Small Talk

● 話す→書くの順序で

● Think→Pair→Share **を繰り返す。**



# 新南スピーク・アウトの柱④

パフォーマンステストについて

## 波及効果

- ゴールは英語が使えること
- 復習させるためのテスト
- 評価項目は少なく（4段階評価で）

## 継続性

- 音読テストからスピーチなど様々

# スピーキングが伸びた理由

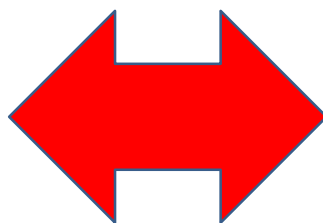
定着系の活動

音読

語彙

Reproduction

Q&Aなど



発信系の活動

Small Talk

Your Opinion

Retelling

など

発信系と定着系を繰り返す

# どのように組織的な授業改善に取り組んだのか

① 公開授業（英語科員全員で参観）

② 事後研究（教員中心に議論）

⇒自分ならどうするか

⇒生徒の様子

（何ができて何ができていなかったか）

③ 指導者の助言

# 組織的に授業改善を継続した成果

## 教員の変化

- 意識の変化と育てたい生徒像の共有

- 教員間の情報共有

⇒科会の時間が相談や情報共有の時間に

- 指導方法の共有

- 定期テストの共有

⇒事前にテスト設計図を配布することで学習すべき箇所を明確にする。

# 生徒の意識の変容

実施時期	1年4月	1年12月	2年12月	3年7月
人数	110	112	107	109
英語が好き	<b>67.5%</b>	<b>72.7%</b>	<b>82.3%</b>	<b>80.7%</b>
英語が得意	<b>31.5%</b>	<b>42.7%</b>	<b>64.5%</b>	<b>66.9%</b>
英語の学習意欲がある	<b>89.2%</b>	<b>90.0%</b>	<b>91.6%</b>	<b>86.2%</b>

授業アンケート 1 とてもそう思う 2 そう思う 3 そう思わない 4 全くそう思わない のうち 1と2の合計パーセンテージ

# 組織的に授業改善を継続した成果

## 生徒の変化（アンケートより）

- Small Talkが楽しい
- Small Talkが前より話せるようになった
- 以前より英語が書けるようになった
- 表現の幅が広がってきた
- テストの点数が上がってきた
- 家で勉強するようになった

# 生徒への励まし・動機付け

- ゴールは入試ではなく英語を使えること
- できたことを褒める
- GTECや模試の結果で伸びていることを伝える
- 達成感を持つことができる授業構成
- Small TalkやYour Opinionで意味中心のやりとり

# 英検取得者

年度	準2級	2級
現3年 (計113人)	52人	14人
H28卒	29人	5人
H27卒	18人	4人